

山梨県立大学 国際政策学部 創発デザインコース 3つの方針

理念と目的

グローバルな視点に立って地域社会の問題を考え、地域の自然、文化、産業を豊かにして地域の活力をつくる人材、アジアをはじめとする世界各国と地域社会をつなぎ、平和で豊かな国際社会の形成に貢献できる人材を育成する。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

地域の自然・文化・産業をヒューマンセントリックの視点から統合的に解釈し、文理融合（自然科学・人文社会科学）の方法論を用いて地域の将来像を描き具現化する主体的・創造的実行力により、地域変革を牽引する人物

学士力 「学士専門力」		学修成果	測定方法
①	多文化共生社会対応力	自身を取り巻く環境の文化・産業・歴史に関する深い知識を習得した上で、自他の価値観や文化背景の違いを理解・尊重・共感し、議論と対話を通してプロジェクトを推進することができる。	・カリキュラムマップにて示す「多文化共生社会対応力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「多文化共生社会対応力」に係る科目の成績評価
②	国際社会基礎力	外国語能力、ものづくり、データサイエンス、デザインなどの文理横断型の知識・技能を習得し、課題解決に活用することができる。	・カリキュラムマップにて示す「国際社会基礎力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「国際社会基礎力」に係る科目の成績評価
③	創造的思考力	自ら問いを立てて過去・現在・未来の軸で社会を捉え、目指すべき未来像を構想した上で、自身が何を考え、論じ、行動するべきかを判断することができる。	・カリキュラムマップにて示す「創造的思考力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「創造的思考力」に係る科目の成績評価
④	批判的思考力	歴史・産業・文化への深い理解に基づいて、多様な利害関係者が共感できる地域のありたい姿を描き、表現することができる。	・カリキュラムマップにて示す「批判的思考力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「批判的思考力」に係る科目の成績評価
⑤	能動的実践力	自らの専門性にとらわれず探求心を持って未知なるものに挑戦し、ものづくりを通して社会の現場変革に挑むことができる。	・カリキュラムマップにて示す「能動的実践力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「能動的実践力」に係る科目の成績評価
⑥	社会変革力	ヒューマンセントリックな視点を持って科学技術や情報を活用し、地域社会を主体的かつ内発的に創造し続ける起業家精神を備えている。	・カリキュラムマップにて示す「社会変革力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「社会変革力」に係る科目の成績評価

卒業判定基準 (学部の表に記載)

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

<総合性に関する方針>
創発デザインコースには、地域の自然・文化・産業をヒューマンセントリックの視点から統合的に解釈し、文理融合（自然科学・人文社会科学）の方法論を用いて地域の将来像を描き具現化する主体的・創造的実行力により、地域変革を牽引する人物を育成するために必要な科目を配置する。

<順次性に関する方針>
1年次は導入科目の履修により、学びの技法を身につけると共に、学部で学ぶべきことの全体の見通しと理解を深められるようにする。
2年次はコース基礎科目の履修により知識、技能、倫理的感覚、そしてそれらを統合する総合的運用能力を身につける。
3年次はコース展開科目の履修により自分自身の価値基準を確立し、それに基づいた意思決定力や自己学習能力を身に付ける。
4年次は国際政策演習（卒業研究）の履修により専門的問題解決能力を身につける。また実践演習科目の履修を通し、自身の価値基準を相対化し、その不完全さを受け入れた上で行動できる能動的実践力を身に付ける。

<実施に関する方針>
実践知を探究しつつ行動する国際人を育成するために探究型学習を重視する。多様な環境にて学びを深め未来を構想する力を養うための学外（国内外）での演習や、自らの手で価値あるものを創り出し社会課題の解決に挑む演習を必修とし、アクティブラーニングや少人数演習を各学年で実現できるようにする。

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

<入学前能力>
国際政策学部は、ローカルならびにグローバルな視点を携え、みずからの問題意識を社会との関係において育み、問題の発見や提起を含めた一連の問題解決に挑もうとする人間を求めています。そのため、以下の3点で入学前能力を評価します。

【知識・技能】高等学校の各教科・科目を幅広く学習し、均衡のとれた基礎学力を身に付けている

【思考力・判断力・表現力】様々な事象を自ら考え、それを自分の言葉で表現することができる

【主体性・多様性・協働性】多様性を尊重しながら他者と対話し、創造的な問題解決に主体的に取り組むことができる

<評価方法>
入学者選抜においては、多様な人材を選抜するため、一般選抜・学校推薦型選抜・特別選抜（海外帰国生選抜・社会人選抜・外国人留学生選抜）・3年次編入学を実施します。各選抜においては、入学前能力を測定するために、提出書類、個別学力検査等によって評価します。

・一般選抜においては、大学入学共通テストと個別学力検査によって評価します。大学入学共通テストでは国語・外国語を中心とした基礎学力を評価します。個別学力検査では主に主体性・多様性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜・特別選抜・3年次編入学においては、提出書類と個別学力検査によって評価します。個別学力検査では、小論文によって主に思考力・判断力・表現力を、面接によって主に主体性・多様性・協働性を評価します。

<入学後能力>
本学部で学修する内容について関心を持ち、主体的な学修への参画によって、学位授与方針に定められた資質能力を身に付けることができる。